



# スリーハートレポート

## 生活支援コーディネーターが本宮のいいね！を紹介しします！



『夜間中学』という学びの場があることをご存じですか。一般的には公立中学校の夜間学級のことをいいます。様々な理由で義務教育を修了できなかった人や外国籍の人などの「学びたい」という願いに対応し幅広い教育を受けられる場として、本宮市でも民営で昨年7月より自主夜間中学が開校しました。今回は、学びを通しての「集いの場」にスポットを当ててみました。



### 「学ぶ」とは、生きるための力を身につけること

### 『本宮自主夜間中学』

月2回、日曜日の午前中、本宮市中央公民館の研修室では、中学生から幅広い年齢の人たちが真剣な眼差しで教科書に向かっています。

今年度当初から着々と準備を進めてきた自主夜間中学は、コロナの影響で開校が1か月程延期となりましたが、7月4日に晴れて授業を開始することができました。

学ぶ意思のある方や、講師の募集には新聞折り込みチラシを使い、広く募集をしたそうです。



講師は教員経験者や教職を目指している学生

事務長の安藤 斎さん (左)



「声に出して物語を読むとより頭に入りますね」

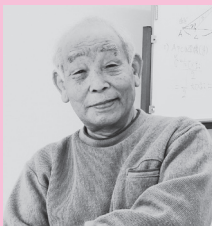


本来なら文字通り、夜間に行くところですが、生徒さんが通いやすい時間帯で実施することにしました。さらに10月からは水曜、1月からは月曜も授業を行っており、月6回に増えました。月曜と水曜は午前・午後・夕方・夜間の時間を選べます。

取材で伺ったこの日は、英語を3人、国語を1人、数学・算数を学んでいる生徒さんが3人と、講師とマンツーマンに近い学習を行っていました。

「ここで使っている教科書は地域の方々から提供してもらったもので、地域の皆さんの応援がありがたい」と事務長の安藤 斎さんは言います。

『夜間中学』という、新たな居場所として多くの方々知ってもらえるように、これからも全力で応援していきます。



本宮自主夜間中学校長 松浦正男さん

「学ぶことを、あきらめないで」  
多様な方々の学習の場を、多くの人々に提供したいと思います。

さらに「出席率は高く、皆さんほとんど毎回休まず来ていますね。そして、回数を重ねるうちに年齢は違うけれど、クラスメイトとして共に頑張っていることが一緒に学び合う仲間という意識につながってきたように感じます」と嬉しそうに話していました。

「ふと目に留まったチラシを見て、私ももう一度勉強し直してみたいって思っちゃったのよ」と笑顔で話す生徒さん。

学ぶ喜びを知り、仲間と一緒に励んでいる皆さんが、とても生き生きしていたのが印象的でした。



分かりやすい言葉で教えてくれる松浦校長先生